

15 ページで分かる圧倒的な差がつく英語学習法

ちょっとした差が、3 ヶ月後、6 ヶ月後・・・取り返しがつかなくなる。

はじめに

こんにちは。初めまして、宗形諭史です。

受験で必死になって覚えた英語が、ほとんど忘れてしまって、英語が全く話せない状態だったのですが、6 ヶ月後には、ネイティブに日本語が教えられるようになり、2 年後、国際企業の社長の通訳をするまでになりました。

詳しいプロフィールは、お手数ですが、

<http://www.japanese2006.com/menu1.html> をご覧ください。

えっ？6 ヶ月で・・・と思いますよね？

そうなんです。自分でもびっくりすることですが、秘訣は本当にあります。英語を話すための秘訣、それを今回、お伝えさせていただきますね。

でも、堅苦しくなるのも嫌なので、リラックスして読んでください。

あっ、ちなみに私は『オーラの泉』の江原さんが好きです ^^

テレビをご覧の方はお分かりかと思うのですが、江原さん、どうしてあんなに笑顔で、癒しを感じているのは私だけでしょうか？

今まで生きてきた中で、女性以外に癒しを感じたのは、初めてかもしれません（笑）

そして、隣にいる、美輪明宏さん。どうしてあんなに不思議なオーラが出ているのでしょうか。美輪さんが、主人公であれば、違うオーラの泉でしょうね

^^

と、自己紹介はこのくらいにして、それでは早速本題に入っていきます。

英語を短期間で話せるようにするための秘訣

早速ですが、**英語を短期間で話せるようにするための秘訣**をお話します。

それは、一言で言うと、**全てを勉強しない。**

と言う事に限ります。

えっ？と思うと思います。しかし、**これが実はとんでもなく大事**です。

英語に限った勉強ではなく、これは、全ての勉強、全ての行動について、**結果を出している人と出していない人の違い**になります。

結果を出している人、結果が出る人と言うのは、全てを勉強していないのです。

ここに、面白い記事を見つけたので、公開しておきますね。

2006年のサッカーワールドカップで注目された日本人選手、天才と言われている中村俊輔選手の言葉です。

- 今回の日本代表の中東遠征で大分の梅崎選手が久々に10代で選出された。中村選手も19歳での初招集でしたね? 「試合に出たの? すごいね。自分が19歳の時は、代表についていくのがやっとだった。北沢さん(現解説者)、山口素弘さん(現横浜C)、名波さん(現C大阪)とか、すごいメンバーが代表にいたからね。あの時のパス回しは本当にすごかった。これがサッカーだ、と思った。自分のノートにメニューとか課題を書きまくったよ。そういう選手たちでもなかなか勝てないんだから、世界は一体どんなところなんだとも思った。だから、自分はJリーグで5年間プレーしたから、さらに成長するために違う環境に出なければいけないと思った。イタリアに移籍してからは、毎試合、欧州や南米代表選手と真剣勝負をするわけだから、毎日代表戦のようなレベルの高さを経験できた。こんなに厳しくて、苦しい経験はそうそうはできないからね」(2006年9月12日06時02分 スポーツ報知より一部抜粋)

この中村俊輔選手、サッカー好きの方は分かると思うのですが(ちなみに私はサッカー好きです^^)、サッカーの本場、ヨーロッパの最高峰の大会で、強豪相手に、華麗なフリーキックを決めた偉大な選手です。

そんな彼が語った言葉に、彼の学びの精神が溢れています。

それは、全てを学ばないこと。

では、何を学んでいるのか?

それは、自分が感じたこと、気づいたことを学んでいるのです。

義務と権利 - 記憶と習慣

私達の多くは、小学校入学から義務教育を受けていたので、教育を受ける私達

に義務があるかのように感じるような授業や宿題(笑)が多かったと思います。

例えば、漢字を丸暗記したり、英語の単語を丸暗記したり。なぜかわからないけれど、保健体育の本を丸暗記して、試験に臨んだり。。

しかし、実際には、私達に教育を受ける義務があったのではなく、国が、私達に教育を受けさせる義務があっただけなのです。

ここで、子供だった私達が非常に困惑しました。

教育とは義務だから、国語、算数、理科、社会、英語、技術家庭、保健体育、音楽までも勉強しなければならない、と。

しかし、勉強をしなければならないわけではないのです。

ここで、確認のため、義務と権利の違いを説明します。

義務 - 法律に基づき行わなくてはいけないこと。日本の三大義務は、「納税の義務」「勤労の義務」「教育を受けさせる義務」

権利 - ある物事を自分の意志によって自由に行ったり、他人に要求したりすることのできる資格・能力。

簡単に言うと、義務はしなくてはいけないこと、権利はしてもしなくてもよいこと、ということになります。

大人たちは子供に教育を受けさせる義務はあるかもしれませんが、私達にとって教育を受けることは権利であって、義務ではなかったんです。

ちょっと熱く語ってしまったのですが、ここには、本当に大事なことが隠されているので、お伝えしますね。

つまり、嫌々ながら受けてきたテスト前の一夜漬け、宿題。こうした一連の教育と言うものは、実際には、私達には権利だったわけです。

学校の受験勉強、好きだったという方は少ないと思います。そして、今、微分積分とか、化学反応の式を解いてくださいと言われてたら、何だかやりたくないような気になりませんか？

全部を勉強する = これは記憶の勉強になってしまいます。

そして、頭の中には全く残らなくなります。だから、なかなか引き出せない。

英語は、外国人に突然街で出会った時、外国人に話し掛けられた時、仕事で使う時、など突然の機会を使うことが多いのです。

突然の機会の時に使える英語が本当の実力です。

でも、暗記をしていては、突然の機会に思い出せないのです。

つまり、この逆を言えば、

英語が出来る人、人生でどんどん結果を出していく人は、与えられたものの中から選択して、自分が気づいたこと、感じたことを元に行動していくのです。

そのため、突然の機会に出会っても、使うことが出来る英語力をつけることができる、のです。

これ、非常に大事です。人生を豊かにする秘訣でもあります。

では、英語には具体的にどうつなげるか？

多くの人が英語を学ぶとなると、英語参考書を購入したり、英会話学校に行くと思います。

しかし、義務教育を受けたまま社会人になってしまうと、参考書の中にあることを一通り読んで、終わってしまう。

もしくは参考書の中に書いてあることのみを実践してしまいます。

えっ？これって普通じゃないの？と思いませんか？

でもこれではいつもと同じ結果しか得られません。つまり、英語は話せるようにはならないのです。

では、英会話学校では？となりますよね。

英会話学校でも同じです。義務教育の延長で学校に入ったとしても、授業を真

面目に受けてそれだけで終わりです。

英会話学校に行って、話せるようになっている人がどれだけいるのでしょうか？

それは**授業の受け方に問題があった**からです。

全てを学ぶ必要はない。

では、どうすれば良いのか？

それは、**英語参考書であれば、自分が感じたこと、気づいたことをどんどん書き入れていく**のです。

「これは、自分はこう言うと思っていたんだけど、本当はこう言うんだな。」

「なるほど、これは使えそう。使えるリストに入れて、早速使おう。」

英会話学校であれば、「先生はこういったみたいだけど、これは言えるのだろうか？」「これ、前に習ったことがあるけど、今回はその応用みたいだ。こう言えるかもしれないので、後で先生に聞こう。」

気づいたことをどんどんノートに書いておく、そして、その日のうちに、使ってみる。

これをする。

「覚えたことの80%は2日以内に忘れてしまう。そして、1ヵ月後、5%も頭に残っていない。」と言われます。

しかし、「あることをすると、1ヶ月後も80%頭に残る。」とも言われます。

それは、口に出したり、紙に書いたりする行為です。つまり、インプットをしたものをアウトプットする必要があるんです。

これをするとしないとでは、英語の実力で雲泥の差が出ます。(これは世界の中でもっとも頭が良いと言われている、ユダヤ人の学習法でもあります。)

記憶の働きについて

英語の相談にのっていると、どうしたら英単語が覚えられますか?とか、参考書で英語表現や英文法を覚えても、すぐに忘れてしまうのですが、と言う相談を聞きます。

私達の記憶って不思議ですね。

ずーっと長く記憶できるものもあれば、すぐに忘れてしまうものもあります。

例えば、昔、習った九九は言えるのに、台形の公式を忘れてしまったり、いじめられたことは覚えているのに、いじめたことを忘れてしまったり、お金を借りたことを忘れているのに、お金を貸したことは覚えていたり(笑)

本当に不思議です。

でも、2つだけ、確実に言えることがあります。

それは、

- 私達がよく使うことは、忘れにくい
- 感情が深く入った時に覚えたことは忘れにくい

と云うことです。

日常生活でよく私達が使う物事は忘れませんよね。

例えば、テレビを見ている人はテレビの存在を忘れません。通常、私達はテレビ、と云えば、テレビの事が理解出来ますよね？

しかし、こんな当たり前のことなのに、アマゾンの奥地にあるメイナク族などテレビがない所の人に、テレビの存在を教えても、すぐに忘れてしまいます。

これは極端な例かもしれませんが、ゴルフをする人はゴルフに関する用語は忘れませんし、パソコンを使って仕事をする人は、パソコン関係で、よく使う用語を忘れません。

自分が日常生活でよく使うこと 反復して何度も何度も使うものは、忘れない
ことがどうやら言えそうです。

また、2番目の気づきについてですが、

「昨日の昼ごはんに食べたものを思い出してみてください」というと、ほとんどの方が覚えていません。

ところが、「ファーストキスの相手は覚えていますか？」とか、「一番感動した映画は？」と言うと、数年前の事なのに、覚えていますよね。

中には、それが数十年前でもはっきりと覚えている人もいます（笑）

また、先ほども言ったように、お金を貸している人は覚えているのに、借りている人は覚えていなかったり、いじめられた人は覚えているのに、いじめられた方は覚えていません。

実は、喜怒哀楽の感情が激しかった時に記憶したのも、人間は長期的に記憶できるようなんです。

そして、この2つの気づきを使って英語を学習すると、英語はより一層身につくことになります。

気づいたこと、感じたことを英会話学習でもどんどん増やしていくことによって、英語がどんどん身についていくわけです。

ところが、どうでしょう。

冒頭で言ったように、参考書に書いてある事を全て、勉強しようとしている人。何だか義務になってしまって、感情も全然湧きません。

特に感動なんてしないでしょう。

このように学習すると、学習時間がいくら長くても、なあなあになって、忘れていく知識を詰め込んでいるだけになってしまうのです。

これでは、いつまで経っても、英語は上達しません。

せっかく、忙しい時間、英語の学習に費やしても、元の木阿弥に戻ってしまいます。

3年英会話学校に通っています、と言う人が英語がさほど話せなかったり、留学をしても日本での勉強と同じことをしている人が、英語力が全く上がらずに帰ってきたり、と言う現象も日常的に起こっています。

英語はあなた自身が気付いて、感動したことをノートに書きつけ、早速使っていく。これで、本当に短期間に伸びます。

しかも、こうして気づいたことや感じたことをノートに書き付けることによって昔の英語学習の記憶が甦ってくるが多々あります。

すると、英語学習が非常に楽になるのです。

例を1つだけだすと、カナダに留学していたときに、私は女優並に可愛いある女の子に、いきなりある楽器を渡されて、飲み会の席で演奏させられそうになりました。

とってもドキドキしていましたが、彼女がこう私に言ったんですね。

You know how?

英語の教科書で学んでいた私は、Do でも始まらなければ、How でも始まらない、疑問文だし省略されていたのですが、100%意味が分かりました。

使い方を知っているかどうか、聞いているんだ。

これは、2002年のハロウィンパーティの時ですが、時間も場所もはっきりと覚えています。

使い方を聞く時は、ネイティブはこう言うんだ、という感動もそうですし、発音も100%完璧に覚えています。

喜怒哀楽が激しく動いた場合に学ぶと、これだけ深く記憶されるんです。更に、これを日常的に使うことによって、更に一層、記憶に深く刻まれるんですね。

それ以外にも、感動したこと、気づいたことは数え切れないほどありますし、それは今でも覚えています。これは記憶ではなく、すぐに使える知識に変わります。

例えば、With you doing the internship, we are spending more than we're bringing in.という英文。こちらは、私が、おそらく3ヶ月ほど前に見た、テレビ番組「フレンズ」の中の一節です。

チャンドラーと言う主人公の一人が、企業にインターンシップと言って、研修を受けていた時のお話で、研修のために収入が入ってこないのに、家計の支出が収入を上回ってしまった、と言う場面での一言。

収入が支出を上回った、ってネイティブの英語表現ではこう言うんだぁと感じた、気づいたことをノートに書いて、実際に使うんです。

どうですか？英語参考書の中にただつらつら書いてある英語の表現よりも、記憶に長く記憶されるし、即使える表現ですよね。

実は、私自身、英語が話せるようになったのは、同世代の英語の話せる帰国子女から、英語を話す秘訣を学んだことでした。

同じ期間しか英語を学習していないはずなのに、「どうして英語をすらすら話せるの？」と聞いたら、「どうしてそんなに英語を勉強してきて、英語を話せるようにならないの？」と聞かれたくらいです。

最初の冒頭で、ちょっとした差がとんでもない差になる、これは本当なんです。
英語が話せる人が知っている気づきを生かすことが非常に大事になります。

だから、何年も英語を勉強してきたのに、英語が全く話せなかった状態から、6ヶ月でネイティブに日本語を英語で教えられるくらいまで成長しましたし、2年で国際企業の社長の通訳も任されるようになったんです。

英語が上達するためには、秘訣があるんです。

今回無料レポートで紹介させていただいたのは、その一部です。

江原さんの言葉

最後に、私の大好きな『オーラの泉』の江原さんの言葉。

「オーラの泉」の番組中、人生は何のためにあると思いますか？と質問されて、彼はこう答えていました。

「私が思うのはね、**人生は感動する体験をたくさんするためにあるものだと思います**。また、様々な経験をして、喜怒哀楽を感じる。魂にとっては、苦しいことでも喜びになりますからね。」

このように言っていました。

ここでも非常に大事なことを言っていますよね。

究極、人生は感動したもののつながりなのかもしれません。そして、自分で何を感じ、気付いたか？で行動していくものだと思います。

私が数ヶ月も前に放送されている江原さんの言葉を今でも覚えているのは、気づいたこと、感じたことがあり、それをメモし、人に話しているから、と言う事も覚えておいてください。

英語も、私はこのように記憶し、どんどん使えるようになっていきますからね。

英語が伸びる人と伸びない人

英語が伸びる人と伸びない人の違いは、準備が出来た人と出来ていない人の違いになります。

私が今回紹介したことも大事なのですが、多くの方が、自分で学んでいる英語の学習に自信が持てず、たくさんの英語参考書を購入して、何が一番良いのか分からずに学習しています。つまり、すべてを学ぶ学習に戻ってしまうのです。

私が今回紹介した気づきについても、実際に気づける人と気づけない人がいるのは事実です。

剣道でも水泳でも何でもそうですが、英語に関しても、基本は非常に大事です。

基本を身につけることで、飛躍的に英語が伸びる土台が出来るんです。

ですが、それは英文法ではありません。
帰国子女も移民の子も、そして、150年前に通訳として活躍した英語の達人も行ってたトレーニングです。

私の「英語を話せるように導く実践的英語学習法」では基礎力をまず短期間でつけて、そして、応用として、日本にいながら海外やビジネス面で十分に使えるレベルにまで持っていく学習法を書いています。

もし、本格的に私の英語学習法を知りたい場合は、以下からご購入頂けます。

<http://www.japanese2006.com/>

もし、英語で困った方がいたら、このレポートは配布されて構いません。好きなご友人などにどんどん配って下さい。お役に立てれば嬉しいです。

ご縁に感謝させていただきます。

江原好き、英語好き、素敵な人も好き

宗形 諭史